

## 3月議会 一般質問（加藤鉦一議員） 出初式は防災力強化に重要 総合交付金のすすめ方は

鶴岡市議会3月定例会一般質問で4日、加藤鉦一議員は、①藤島地域の出初式の中止と防災力、②単位自治組織への総合交付金について質問をおこないました。

### 旧町の伝統は継続できないか



「きかないか」と求めました。

秋庭一生・消防長は、「消防団の組織検討委員会の協議の中で事業のあり方が検討され、一定の統一が図られた。方面隊の事業は団員の負担に配慮して検討することとされ、昨年10月11日の方面隊幹部会で藤島地域の出初め式は取りやめとすることに決まった。梯子乗り・纏振りは大切な伝統であり支援していきたい」と答えました。

藤島地域の出初式は今年度取り止めとなり、安全祈願祭は今年が最後となりました。

「新年早々に、寒風吹き荒ぶ中で自治体と消防団員、市民の防災力を固める最大の儀式であり、旧町の伝統であり、出初式を継続で

### 事務が庁舎から消防本部へ

消防団事務が地域庁舎から消防本部・分署に移管された問題では、「消防団との意思疎通が希薄化し、地域庁舎の防災力の後退になっているのではないか」と述べ、「防災力が行財政改革の犠牲になってはならず、消防団事務を地域庁舎に戻すべきだ」と求めました。

消防長は、「消防団の統合後、消防団全体に関わる事務と消防車両の購入など重要事務は消防本部の主体となつたことから、平成24年度に効率化と経費削減を図るために、行財政改革の実施計画に基づき、団事務を一元化した。ただ各地区のきめ細やかな対応が必要であり分署が窓口業務をおこなうことにした。庁舎との連携は防災担当職員も会議に出席し図られている」と答えました。

### 自治体の防災力

昨年1月20日の藤島地域の出初め式



加藤鉦一議員は、「自治体の防災力で最も重要なものが市町村長のリーダーシップとされており、地域庁舎にあつては支所長がその任に当たる」と指摘し、「第1に、地域庁舎に権限を委譲し、本庁と地域庁舎との分権化を進めること、第2に地域の住民組織を育て、自治組織化を図り、住民の防災活動を活性化させること、第3に福祉や健康など住民と自治体職員との協働関係を高め、被災時の対応が速やかに図れるようにすること、第4に市民に対する

### 総合交付金の会計処理

旧市町村で異なる地域コミュニティ支援施策の再編で、来年度から町内会長報酬や公報配布、公民館維持費、衛生連補助金、自主防災補助金、防犯灯経費などを「住民自治組織総合交付金」に統合します。

特別会計によらず、町内会の会計処理がスムーズに移行されるよう支援していきたい」と答えました。

単自治組織が自治会費や町内会費によって運営してきた会計に、今度は新たに総合交付金が収入として加わることにより、予算・決算書の提出が義務づけられ、「将来的には会計監査もありうるのではないか」「特別会計の処理も良いのではないか」という声があることを紹介し、市の対応を質しました。

将来の財源確保の問題では、市民部長は「今後の経済社会情勢に適切に対応していくことが必要だ」と答え、将来の保障がどうなるかは明言しませんでした。

市民部長は、「総合交付金は市の補助金申請・交付事務と同様のすすめ方で行われる。特定の目的のための

現行の防災計画では、地域本部の設置は緊急を要する場合に設置することが出来ることとされています。上原正明・市民部長は「市は東北一の面積を有し、山間部から沿岸部まで多様な自然環境を有する。地域の災害特性に合わせ迅速かつ的確な対策を講ずるには、地域庁舎に精通している地域庁舎の災害対策が重要と考えている」と答えました。

市民部長は、「総合交付金は市の補助金申請・交付事務と同様のすすめ方で行われる。特定の目的のための

地域の防災計画では、地域本部の設置は緊急を要する場合に設置することが出来ることとされています。上原正明・市民部長は「市は東北一の面積を有し、山間部から沿岸部まで多様な自然環境を有する。地域の災害特性に合わせ迅速かつ的確な対策を講ずるには、地域庁舎に精通している地域庁舎の災害対策が重要と考えている」と答えました。



# 東栄小の佐藤大心くんが全国2位 剣道体験・実践発表



項目が審査されます。



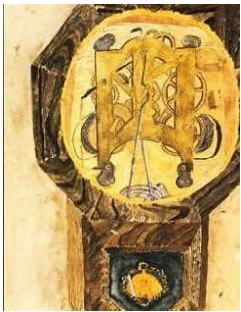
全日本剣道道場連盟

主催の『第36回日本剣道少年団研修会 体験・実践発表』が2月23日、東京・新宿の日本青年館で開かれ、東北地区最優秀として出場した東栄館道場の佐藤大心くん（東栄小6年・添川2区）がみごと

全国で2位の優秀賞に輝きました。監督の太田功氏によると、大心君は「9人中真ん中の発表だったが、発表が近づくにつれ緊張した。本番の発表は今までで一番堂々とできた。大きな賞をいただきうれしい。皆さんにお礼申し上げます。」と感想を述べてくれたとのこと。

大会は、全国9地区代表の小中学生が剣道を通じた実践・体験発表を行い、作文内容、発表態度、礼儀などの

ホールクロック  
大沼 浩



鳩時計は英語ではかつこう時計と書きました。その後時計店からクロックのカタログを頂戴しました。それに

## 「福島県の悲しみを知ってください。原発被災地を歩くガイドブック」

—「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

ちよつと古いしんぶん赤旗2月3日付14面、「相馬新地・原発事故

よると鳩時計はなくてカックロクロックです。今に日本語から鳩時計が消え、かつこう時計になることでしょうか。

カックロクロックは掛け時計ですが、英語ではウォール(壁)クロックです。置時計に当たる英語はありません。カタログの置時計にホールクロックがあります。建屋のホール(広間に置かれるからこう呼ばれるのでしょうか。床に置かれ1メートル50から2メートルを越えるものがあります。英語ではグラントフアーザークロックまたはグラントフアーザーズクロックと呼ばれます。お祖父さんの置時計ですが、アメリカのH・C・ワークのポピュラーソングにちなむのです。

カタログのホールクロックで時を知らせるのはチャイムです。(続く)

の全面賠償をさせる公言発行。編集責任を務めた大内秀夫さん(77)からの取材である。

私は高橋徳雄さん(駅前)を頼って避難してきた佐藤さん夫妻と今もささやかな交流をもっている。3・11を忘れないために、「程遠い廃炉の事を考えたら再稼働なんて考えられないこと。燃料棒を取り出

す作業2回までは公表あとは公開しないと決めた東電に唾然」と賀状にあった。3年を迎える。

「ガイドブック」に3・11の前に詠んだ短歌があった。「事故あれば被災地となるこの町のそら晴れわたり鶉(ひわ)の群れ飛ぶ」に仰天した。するどくその危険を警告した方がいたのである。さらに大内さんら404人は、1975年に東電福島第2原発設置取り消し訴



### 日本はオカシイヨと

1億火の玉、鬼畜米英、慾しがりません勝つまでは、など国民の心を総動員する言葉と戦争に反対する国民の声を治安維持法で封じ、戦争へ突き進んできたが、やがてポツダム宣言の無条件受諾で終戦

▼そして二度と戦争はしませんと世界に宣した新憲法を守つて68年。しかし、どうしたことだ首相の言動は。選んだ選挙民もこれでもいいのかい。これに与する政党を押し込んだ人達もこれでいいのかい、と問いたいネ。

▼中国・韓国・米国までも日本はオカシイヨと見ている。ニュースにはならないが、当時日本が騒がした東南アジア諸国も同じ思いだろうと思つ。

▼首相が狙っているのは、日本が世界に信用される憲法九条を無に

訟を起こしている。最高裁まで争つたものの敗訴。「ストップさせる力は世論です。福島に来てください。人影の消えた街を見てください。ガイドブックを持ってスタッフは待っています。原発ゼロへ、ともに歩みましょう」と大内さんは訴えている。もちろん作業援助、物資支援なども必要だが、「人影の消えた街を見、「ともに歩」くことも大きな支援である。

し、集団的自衛権の行使として戦争できる国にすることだが、今はそれに合わせて非核三原則と武器輸出三原則を破ろうとしている。長い間積み上げてきた大事な原則を一気に無くしようという。

▼首相が言う積極的平和主義とは、平和外交ではなく、力で相手を押さえることなのだ。これでは昔と同じ日本になるゾと世界が警戒するのは当然のことだ。

▼首相が再び戦争をしないために、と言う靖国参拝が、松岡と言つたらうか、かつての国連大使が演説で、日本の言うことが信用できないとすれば国連(當時は国際連盟)を脱退するしかないとして退場し、その後世界が心配していた大戦へと入つて行つたのだ。

▼首相の言うことが、俺にはその時の状況とダブって見えて仕方がないのだが。(石川)

福島に生きる

ガイドブックを編集 大内秀夫さん

震災・原発

人影の消えた街を見て

しんぶん赤旗 2月3日